

第1回 信州ネイチャーセンター基本方針策定検討会 議事録

自然保護課

○信州ネイチャーセンター基本方針策定検討会の設置について（資料1）

発言者	発言要旨
山田(拓) 委員	オブザーバーに関係市町村が入っているのは、自然保護センターの所在地の市町村か。
事務局	ご指摘のとおり。
山田(拓) 委員	施設の活用や利用促進の視点で検討会の構成員を拝見すると、県の観光関係の部署が入っていない。誘客等を考えたときに県の観光関係部署の参加が必要かと思われる。
事務局	検討会には参加しないが、検討の内容や結果については、情報共有のうえ十分協議を行うこととしている。ご了承願いたい。

○検討会の概要について（資料2、3）

発言者	発言要旨
笹岡 座長	<p>県で議論されたい中身を網羅的に説明された。自然公園の利用を巡る動きの中で長野県が所管している自然保護センターをリフレッシュ、リニューアルしたいという気持ちが伝わってきた。</p> <p>共通事項、大枠を決めるのが今回の検討会という認識。</p>
海津 委員	<p>かなり議論されてまとめられた資料という印象。</p> <p>信州ネイチャーセンターという言葉で全体を括った大きな方針という印象で、方針の策定あたりは賛同する。</p> <p>エコツーリズムが主要なコンセプトとなっているが、構想の中でどのように定義されているのか。</p>
事務局	<p>一つの概念的なもの。自然保護、環境教育を含んだ観光のあり方。</p>
海津 委員	<p>歴史・文化についても自然の中から生まれているものとして捉え、ツアーの内容にも盛り込んでいくということによいか。</p>
事務局	<p>よい。</p>
山田(拓) 委員	<p>この方向性で進んでくことが長野県にとって非常に重要なこと。ただし、進めていくにあたり大変な箇所が多いのではと思う。</p> <p>世界のやり方を手本に日本でどのような手法が考えられるかを自身の基本的な考え方としている。この視点で考えた時に「ネイチャーセンター」という言葉が世界の人にとって、イメージとおりに受け止めてもらえるか。「ナショナルパーク」や、「ビジターセンター」といった単語が多いかなという印象。用語として「ネイチャーセンター」がユーザーや事業者などの関係者から親しみやすい・イメージしやすい単語かを検討する必要があるのでは。</p> <p>国内の観光市場が縮小傾向の中、エコツーリズムの状況は相当厳しい。その中で長野県らしさを加えながらどのように取り組んでいくか。事業実施にあたり、維持コストと人材の確保が大きな課題になると思われる。そういった点も基本方針に含めていただければと思う。</p> <p>今の目指す姿では、現状の自然保護センターでも達成できるのでは。せっかく新たな方針を打ち出すなら、「世界標準の」とか「日本一」、「グローバルスタンダード」と言った夢をブチ上げる話題性のあるフレーズ、ニュアンスが入った方がいいのでは。</p>
笹岡 座長	<p>「ネイチャーセンター」という言葉自体は既に県で決めてしまった単語なのか。</p>
事務局	<p>明確に「ネイチャーセンター」という単語を使用することにはなっていない。</p> <p>目指す姿の表現ですが、少しわくわく感や、ドキドキ感を入れ込むということを見ると山田(拓)委員のご指摘を取り入れるよう検討したい。</p>

中山 委員	優れたビジターセンターを想像すると日本中で事務局案のようになると思うが、なぜ実現できていないのか。ポイントでいいので教えてほしい。
事務局	各自然保護センターで抱えている課題が異なるが、管理体制、人員体制に課題があるのでは。
中山 委員	カフェスペースの提供や、有料ツアーの提供が挙げられているが、環境省の場合だと国有財産法上の問題が発生し、なんとかクリアしながら対応している。県の場合はいかがか。
事務局	県も同様に県有財産という位置づけで営利目的の使用が原則不可となっているが、県の方針として県有財産の一部に営利目的の機能や施設の設置が必要だと明記されれば可能である。 制度面についても実現可能な手段を検討したい。
山田(祐) 委員	以前ビジターセンターの職員をしていたが、制度的に優秀な人材を長期間雇用できなかった。人材の確保、充実が一番の課題。

○自然保護センター等の概要について（資料4）

発言者	発言要旨
笹岡 座長	<p>各自然保護センターの皆様へ現状を説明いただいたが、県で考えているゴールがスタートから遠いという印象。</p> <p>志賀高原自然保護センター利用者数が、資料4の概要資料と資料5で異なっている理由は、</p>
三ツ橋 氏	<p>資料4は、4月から11月までの利用者数を記載。資料5は年間利用者数を記載している。</p>
海津 委員	<p>志賀高原自然保護センターとガイド組合の関係性と成り立ちを。</p>
三ツ橋 氏	<p>冬季間の利用者が減少する中、夏季の観光客を取り込もうとガイド組合を2003年に設立し、自然公園の利活用を図った。設立にあたり、観光協会では収益性のある団体を直営で運営できないこと、ガイド事業の性質上、自然保護センターの業務に関連する部分があることから、特別会計を設けて自然保護センターの下部組織とした。</p>

○意見交換

発言者	発言要旨
山田(拓) 委員	<p>県設置以外のビジターセンターも含めると同一の自然公園内に複数のビジターセンターが設置されている地域が存在している。</p> <p>コンセプトとして「自然公園に訪れたら最初に立ち寄る施設」としているが、この場合、複数のビジターセンターを来訪することはまず無いと思われるので、どのエリアに来訪したときに必ずここに来るといったエリアの明確化が必要。地域内に類似施設がある場合は、差別化するという視点があってもいいのでは。</p> <p>集客視点で考えると、来る理由付けができなければ人は来ない。施設を訪れる理由付けと、どのエリアに来た時に来訪してもらいたいかを明確にすることが必要では。</p> <p>自身がツアー事業者としても感じている課題だが人と金をどう確保するかという点に集約するのではと思う。その点についてはしっかりと考えなければならない。</p> <p>環境省では、海外のビジターセンターが金や人をどのような手段で確保しているか情報を持っているか。</p>
中山 委員	<p>最近、環境省が実施したビジターセンターのあり方の見直し事業で調査したのではないか。資料が手に入れば提供する。</p>
山田(拓) 委員	<p>今の日本の現状だと活用策の道筋がなかなか見えないので、海外の事例を参考にするのは手だと思う。</p> <p>利用者側の視点で見たときに外国人に対する対応は必要。自身の行うツアー参加者の9割が外国人。3年ほど前から自身のツアー参加者も日本人は減少しており、運営サイドがこうありたいと思い描くが日本人の観光市場をみつめると、エコツアーに参加しにくい状況にあるので、外国人への提供も視野に入れては。</p> <p>観光庁でも欧米系の外国人利用者にターゲットを絞って政策に力を入れている。主要となる利用者を想定したときに外国人をどう取り込むかは重要ではないか。</p> <p>より具体的な検討をする際は、すべての人をターゲットにしたツアー等は存在しないので、利用者のターゲティングも視野に入れて検討してはと思う。</p>
笹岡 座長	<p>環境省では、ビジターセンターの情報発信プロジェクトを昨年実施しており、総論だがインバウンドも含めた情報発信のあり方が記載されている。また、環境省では、ビジターセンター技術指針の改定を現在行っており、近々改訂版の技術指針が示されるのではと期待している。ハード整備の指針だが、効果的な改修方法や、運営体制などのソフト面等についても議論をしたので、指針が示された場合は参考にしてはと思う。</p>

<p>海津 委員</p>	<p>自然保護センターと言っている限りは集客を増やすことには繋がらないということが共通認識できた気がする。</p> <p>一方で長野県の観光戦略の中では、自然観光は非常に大きな柱であると思う。その中で県内に設置されているビジターセンターは県の観光戦略を担う柱になりえると思う。</p> <p>利用者からすると「自然保護センター」という名称だと最初に立ち寄る玄関口に絶対ならないと思う。「ネイチャーセンター」でもあまり変わらないかもしれないので、「ネイチャーアクティビティセンター」とか、ここに行く活動のヒントが得られる、呼び水になるような新しいコンセプトが必要かなと。</p> <p>エコツーリズムの拠点になるビジターセンターは、エコツアーを提供し続けるというよりも、エコツーリストを増やすということが役割だろうと思う。セルフガイドも一種の手段。</p> <p>また、観光協会や観光施設と連携して、ツーリストにガイドを提供するということが現実的に可能な手段かなと。</p> <p>その際に、センター間の連携、横のつながりがいいことは大きな問題で、個々の施設が孤軍奮闘している状況。センターの自慢や魅力は、その中で働いている職員は次第に見えなくなってくる。連携する中でお互いのPRポイントを打ち出していくことが必要。</p> <p>主体的に活動する時間や経済的余裕がないのであれば、県が主導して7月から9月頃に長野のネイチャーツアーフェスティバルみたいな形で、センターの関係者が一堂に集まる機会を設けてはどうか。</p>
<p>中山 委員</p>	<p>資料5を見ると自然保護センターの利用者数が軒並み少ない。長野県の観光統計を見ると霧ヶ峰では200万人が訪れている。大変多くのお客様が来られるところに立地しているにも関わらず利用者が少ないのは、なぜセンターが訪問されないかを十分に考える必要がある。</p> <p>信越事務所の管内で一番のビジターセンターはと聞かれたら新潟にある妙高高原ビジターセンターとよく言っている。新潟県の施設で妙高市が管理しているが、入館者数は右肩上がりです。11万人を超えている。ほとんど手作りの展示で、2人のスタッフが運営をしているが、毎週土日はイベント開催している。この点だけみれば、自然保護センターも努力次第で更なる利用者数増が期待できるのでは。</p> <p>志賀高原については、ガイド組合が設立され、団体利用客への対応は非常に上手くやっているが、常駐職員は1名で個人利用者に対する対応が不足しており、アンバランスな印象。悪い点もあればよい点もあるので手直しが必要かと思う。</p> <p>センターの職員の皆さんは施設の管理・運営等で厳しいと感じている点が多々あると思うが、制度の一部を緩くする、若干運営費を増やすといったことをすると格段に良くなる素地もあるなというのが今日の感想。</p>

<p>笹岡 座長</p>	<p>各施設が工夫して運営していると思うが、長野県なりの自然保護センターの課題を絞っていくと参考となる事例が全国から出てくると思う。</p> <p>山田拓委員から「どうして県の観光部局が参加しているのかと」ご指摘があったが、次回までに県の観光サイドとしてインバウンドの現状や観光統計等、長野県の観光全体の現状やトレンドがわかるよう示していただきたい。</p>
<p>加藤 氏</p>	<p>上高地ビジターセンターは、ミュージアムショップというスペースを運営しているが、アイテム数を増やしたり、グッズのリニューアルをすることで、来訪者数に影響しており、再来率の高いスペースとなっている。</p> <p>また、機能強化の点では、車いす・ベビーキャリア・双眼鏡の貸し出しと、すきま産業のような形で利用者にとって必要な機能は何かと探していくとできることはたくさんあると思う。</p>
<p>中山 委員</p>	<p>県の4か所だけで見ても、管理者や雇用体系が異なり横の連携が少ないことが分かる。以前勤務した釧路では、管理主体は関係なくビジターセンターの職員が一堂に集まる合宿が年に1回開催されていた。当初は環境省主体で実施したが、その後、関係者が自主的に開催している。そこでそれぞれの施設の問題を共有して、優良事例を参考にするといいやり方で、いい循環をしていたので、身近なところからも改善の余地があると思う。ぜひ考えていただければ。</p>
<p>笹岡 座長</p>	<p>海津委員からも同様の趣旨の発言があったが、現場でインタープリテーション的な仕事をしている施設や、類似施設が、意見を交換し合う場は中々ないので、自然保護センターのみか、他のビジターセンターを含めてでもよいが本庁主導で呼び水になるような場の提供をしていただければ。</p> <p>かつては環境省でも自然解説者の全国研修会を実施していた時期もあったが今はなくなった。</p>
<p>山田(拓) 委員</p>	<p>信州ネイチャーセンター基本方針ということで自然保護センターにエコツーリズムの機能を加えてネイチャーセンターにしましょうということですが、一步引いて考えた時に4か所の自然保護センターだけ機能強化して本当に人が来るのだろうか、それだけで足りるのだろうか。</p> <p>今回の検討範囲はここまでと認識しているが、本当は環境基本計画、観光戦略といった上位概念にネイチャーセンターが計画に位置付けられているのであればいいが、そうでなければ予算を入れてテコ入れしても、少し良くなるだけでその先には進めない。ネイチャーセンターを取り巻く環境を広い視点で見た時に全体計画との整合性をあわせて検討する必要があるのでは。</p>

	<p>自身が旅人視点で考えた時、いくらウェブサイトや施設改修したとしても利用者がセンターに中々たどり着かない。一つの参考例として、長野駅のインフォメーションセンターの中にネイチャーツーリズムの人材を配置するとか、ハブとなる場所にセンター的機能が必要では。若しくはソフトの情報発信方法等について、長い時間軸で考えなければならない。実際、来訪者側の立場に立った時にセンターの機能強化だけで足りるのか。幅広い視点での検討が必要になってくるので、今回の検討会の範囲を超えるのであれば、別で検討すべき。</p>
中山 委員	<p>注意すべき点として、あくまでも地域の魅力で人を呼ぶのであって、ビジターセンターの施設のみで人を呼んではいけない。主要なパーツではあるがあくまでも、自然公園の魅力をサポートする施設なので、エコツーリズムというつながりで自然保護センターの見直しを行うという県の視点はよいと思う。</p> <p>施設を改修すれば、来訪者が増えるというわけではなく、周辺環境を整えて、ビジターセンターが機能的に働くということが重要ということを理解いただきたい。</p>
笹岡 座長	<p>要するにビジターセンターは地域の自然や文化も含めて、自然公園等に誘導するための手段であるということ。</p> <p>例えば、ビジターセンターに長く滞在してもらうことが目的ではなく、必要な情報を得たら、積極的にフィールドへ促すことが必要。</p> <p>今回の検討では、施設の建替えではなく、既存施設をどう生かすかということだと思うので、施設内の改装や、足りない機能を追加する等は大事だと思う。</p> <p>これは、個別の検討で行えばいいが、人員不足によりセンターが無人になった場合や、閉館時に施設の外で最低限の情報やサービスを提供できる仕組みを作っては。他の事例では、閉館中でも屋外の掲示板の設置により必要な情報を提供したり、改修・改築により、トイレのみ閉館時も使用できるようにした施設も存在する。少しテコ入れすればサービスの向上につながると思う。</p>
海津 委員	<p>ビジターセンターはいかに人を巡らせる施設になるかと思う。</p> <p>オーストラリアのフレーザー島にあるビジターセンターの事例を紹介する。島を徒歩で散策する観光客が多いので、ビジターセンターでは、どこを散策したか分かるパスポートを発行している。散策エリアの把握のために施設に立ち寄る仕掛けをしており、施設間連携、地域間連携を促進する仕組みづくりの参考になれば。</p> <p>次回で構わないが、各自然保護センターがツアーリストからの質問や欲しい情報が何かを教えて欲しい。観光客のニーズの中に自然保護センターの活用策のヒントがあるはず。</p>
中山 委員	<p>今月、環境省直轄でインフォメーションセンターの万座自然情報館</p>

	<p>をオープンする。隣接の観光協会の職員がスタッフとなり、常勤職員は3名。そのうち1名は自然解説等が可能な職員を配置するということが、必要な人材を募集することになったが、万座という勤務困難地で採用するため、通常より高めの給料の設定をしたところ適切な人材を採用できた。ビジターセンターは働くのが大変な場所に設置されていることが多いので、質の高い人材を確保しながら、レベルの高いサービスを継続して提供するには雇用条件の改善は必要なこと。</p>